

## 第7章 今後の課題と対応方針案

本章では、過年度業務及び本年後業務によって得られた知見を基に、再生可能エネルギーの導入ポテンシャルやゾーニング基礎情報等に関する今後の課題と対応方針案について取りまとめている。

### (1) WebGIS を利用した情報提供サイトの試作と有効性の検証

有効性・操作性の観点から検証を実施し、過年度未実施の意見を含めて対応内容を検討し、必要に応じて試作システムの改修を行った。アンケートより得られた意見の中で、まだ対応しきれていないものについては引き続き改修を進めていく必要がある。

### (2) 過年度の再生可能エネルギーのポテンシャル推計に係る算定方法・数値情報の見直し及びデータベースの更新

各エネルギー種の見直しポイントを「自然条件・社会的条件」・「事業性試算条件」等の観点から網羅的に見直すべきエネルギー種・見直しポイントを選定し整理した。各エネルギー種を取巻く状況は近年刻々と変化しているため、次年度の推計にあたっては改めて最新の状況を確認することが求められる。

### (3) 過年度の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル等のとりまとめ・概要資料の改訂

過年度の再生可能エネルギーの導入ポテンシャル情報について、地域住民や地域の NPO 等職員等を読者対象とした概要資料導入編を作成した。今後は、次年度の再推計結果や問い合わせ等を踏まえ、継続的に見直しを図りさらに読者にとってわかりやすい概要資料となるよう努めることが望ましい。

### (4) 再生可能エネルギーの導入実績に係る調査・分析の精緻化

ポテンシャルと実績の乖離に着目し、事象のパタン化・要因の分析を通じて導入実績調査の精緻化を図った。本調査によって明らかになったポテンシャル調査による限界を取りまとめることで読者に対して本調査の精度を示し、ポテンシャル調査結果の正しい理解と利用につなげるようにすることが重要である。

### (5) 太陽光発電のマッピングの精緻化作業の基礎検討

再エネ導入促進に繋がる太陽光マッピングのあるべき姿を検討した上で、情報提供に向けたデータ整備・システム構築等の基礎検討、課題の整理、設備導入プロセス及びロードマップの検討等を実施した。システム構築の側面では、環境省がシステム構築する案を提示したが、具体的な実現可能性までを検討していないことから次年度以降に維持管理の面も踏まえて詳細に検討する必要がある。データ整備の側面では、自治体を中心になって整

備すべきという案を提示し用いるデータをいくつか提示したが、精度とコストのバランスが十分に検証できていない。実際に特定エリアにおける太陽光設置建物において、各データの精度とコストを再検証していくことが求められる。導入促進機能の構築の側面においては導入促進機能の担い手について検討し、主体的に取り組むことができる地域の複数団体を案として取り上げた。しかしながら地域内における連携においては意思疎通や合意形成、役割分担等に課題があるため、こういった課題を解決する支援をしていくことが重要となる。